

令和3年度 一本松中学校学校評価(学年末)

愛南町重点目標

評価規準 A：目標を達成 B：6割以上肯定 C：4割以上肯定 D：4割未満 サンプル数 教職員(8人) 生徒(48人) 保護者(39人) 地域住民(29人)

重点目標	評価指標及び目標値 (期待される姿)	評定	学校による考察(◇)及び改善方策(◆)	評価資料	アンケート結果(%)				
					4	3	2	1	
1 地域とともにある学校づくり	(1) 地域を生かした教育活動の充実	前期評価	◇生徒・保護者・地域住民はA評価であるが、教職員はC評価である。感染対策期・感染警戒期等により、学校を開けていなかった影響がみられる。 ◆地域学習や職場体験学習、講演会等、コロナ禍でもできることを模索しながら、学校と地域とのつながりの強化を図る。	教職員アンケート	33	22	44	0	
		学年末評価	◇教職員・生徒・保護者・地域住民の8割が肯定しているため、A評価である。職場体験学習において、地域を生かし、連携・協力することができた成果であるとする。 ◆校外だけでなく、校内の授業において人材を活用できるようカリキュラム・マネジメントを行う。そのために、学校運営協議会との連携のもと、更なる人材発掘に努める。	生徒アンケート	26	57	17	0	
					保護者アンケート	26	67	7	0
					地域住民アンケート	69	27	4	0
					教職員アンケート	25	75	0	0
					生徒アンケート	31	63	6	0
					保護者アンケート	39	61	0	0
					地域住民アンケート	63	31	0	3
		(2) 地域の思いを反映させた学校運営	前期評価	◇8割以上が肯定的である。コロナ禍において、できることを模索しながら修学旅行や郡総体に取り組んだ成果であるとする。 ◆運動会や文化祭においても地域の思いを受け止めながら実施していく。	教職員アンケート	33	67	0	0
	学年末評価		◇8割以上が肯定的であるため、A評価である。人数制限はあったものの、授業や学校行事を保護者や地域に公開することができた。 ◆制限がある中で、地域の思いを収集・集約する方法を、今後も検討する必要がある。	教職員アンケート	25	75	0	0	
		(3) 学校評価を踏まえた教育活動の充実・改善	前期評価	◇R2年度末学校評価を踏まえながら、ICTの活用などの改善に取り組んだ。 ◆今後は、前期評価を基にして2学期以降の改善に取り組む。また、行事ごとにアンケートをとったり、学校評価アンケートの内容を平易にしたりと評価方法を改善する。	教職員アンケート	44	56	0	0
	学年末評価		◇8割以上が肯定的意見であるためA評価である。少しずつ学校を開くことができたことで、地域とつながったり、その様子を発信できたりした成果であるとする。また、アンケートの内容を、少しでも分かりやすいものに改善しようと努めた。 ◆アンケート結果や意見を謙虚に受け止め、教育活動の充実・改善に努める。	保護者アンケート	35	63	2	0	
				地域住民アンケート	64	36	0	0	
	(4) 情報の積極的な発信・受信	前期評価	◇学校が開きにくい状況の中で、各種通信やホームページ等により学校の様子を発信した成果だと思われる。 ◆否定意見が0%になるよう、まちコミやページング放送(防災無線)も活用していく。	教職員アンケート	78	22	0	0	
学年末評価		◇教育活動だけでなく、保護者や地域の反応も発信することができた。 ◆ホームページは閲覧者が限られる恐れがある。学校の取組を更に周知するために各種通信の配付先を拡大する。また、学校側からの情報提供だけでなく、地域との情報受信の在り方を検討していく必要がある。	保護者アンケート	30	65	2	2		
				地域住民アンケート	58	38	4	0	
	学校運営協議会の所見	前期評価	○コロナ禍でも、できることを模索しながら学校と地域とのつながりの強化には賛成である。 ○積極的な情報発信がなされている。今後も、様々な機会やツールを活用して情報の発信・受信に努めてほしい。 ●地域に関する学習内容の工夫やオンライン等の活用等も検討しながら、充実・強化を図っていただきたい。 ●地域の人材は限られており、一本松に限定するのではなく、地元を離れた人材を活用し、一本松へ還元できるような教育も必要なのではないか。	前期評価	・コロナ禍において、積極的に学校を開くことができていないが、様々な機会を捉えて情報を発信し、学校の取組を周知する。 ・地域とのつながりを維持するために、ITCを活用した取組を計画・実施する。				
学年末評価		○職場体験学習等、地域を生かした教育活動が展開され、評定も向上している。今後も地域と連携しながら、人材活用に取り組んでほしい。 ○体験学習は、なりたい大人の導入部分でもあり、より有意義であるため、今後も継続してほしい。 ○地域の教育力を高めるためにも、社会教育の力を借りる必要がある。	学年末評価		・保護者や地域との連携を深め、地域人材や地域の教育資源を生かした教育活動を継続する。 ・これらの活動を通じて、地域には「地域で子どもを育てる」という意識の啓発を図る。				
			学校の対応						